

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 11 章 27～36 節 >
ルカらしい、前段落から続けて読むと分かる話が続いている箇所。

1 (27-28) 空っぽだと危ない → 主イエスの神の言葉に聞きなさい。

直前の個所(24-26)は、私たちの中に何を満たすか、空っぽでは危ないという話でした。ではどうしたらいいのか。「幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である」(28)。神の言葉で満たすのです。そしてそれを語るために来られたのがイエス様なのです。イエス・キリストの言葉をよく聞いて、それを私たちの中に満たして生きることが大事なのです。

2 (29-32) 「イエスを信じていい理由は」と問い続ける人への答。

「しるし」は 16 節に出て来ました。イエスを信じていい理由を問い続けた人が求めたものです。主イエスは、「人の子も今の時代の者たちに対してしるしとなる」(30)と答えられました。「人の子」とはイエス様ご自身のことです。つまり、これはイエス様が十字架に架かって死なれ、その三日後に復活されることを言われているのです。とすると、それはまだ起こっていないのですから、信じられないのは当然でしょうか？ イエス様は「ソロモンの知恵を聞くために地の果てから来た」女王と、「ヨナの説教を聞いて悔い改めた」ニネベの人たちのことを語られました。しるしを見さえすれば信じられるというものではなく、私たちの側の、聞こうとする姿勢と、神の方に向き直って生きる方向転換（「悔い改め」の原意）があって初めて主イエスを救い主と信じることは起きるのです。ソロモンやヨナの場合とイエス様の場合では違うことが一つあります。イエス様の存在そのものも「言葉」として考えておかなければならない点です。「人の子がしるしとなる(主の十字架の死と復活)」のであり、私たちはこの出来事から深く聞き取らなければならないのです。私たちの思いを超えた神様の恵みの業を語るにはこの言葉しかないのです。それが分かった時、次にすべきことはこの方に聞いて生き出すことなのです。

3 (33-36) 何を言いたい話か？ ともし火 (イエス様) は与えられた！

「信じられないのは、しるしが足りないからか。違う。明るい光を放つともし火 (イエス様) は与えた (33)。あなたたちの目は澄んでいるか、濁っていないか。見るべきものを見ないで、見なくていいものを見ていないか。それを確かめなさい」、そう言われているのです。神様はイエス・キリストを送って下さったのです！ 進むべき道は明らかです。主イエスの光をあなたとその回りに輝かせて生きる道です (36)。